

令和6年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽松高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の取組
<p>1 今求められる必要な力を育成すると共に、生徒一人ひとりの適性と能力に応じたきめ細やかな学習支援を行うため、教育的ニーズの把握と手立てを検討し、授業のユニバーサルデザインと学習教材の工夫等により指導の充実を図る。</p>	<p>① 授業のユニバーサルデザインによる学習支援を行うと共に、AI学習教材を活用することで、学習意欲と個別最適な学びに繋げる。</p>	<p>学習支援や学習教材の工夫等により、学習意欲と個別最適な学びに繋がった生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。</p>	<p>29% <b>D</b> 【R6.9 D 17%】</p>	<p>9月と1月に実施した生徒アンケートの「自主的な学習への取り組み状況に関する設問」の回答状況から、学習に対して意欲的に取り組む生徒の割合が上昇している。授業のユニバーサルデザイン化を授業者全員で進めてきたことが学びやすさにつながり、また、スタディサブリの導入によってつまづきが少しずつ解消され学習意欲の喚起につながっているものと考ええる。今後も、個別最適な学びへつながるよう取り組む。</p>
	<p>② 授業力の改善と、教員の資質向上を図るため、発達障がい理解を深める研修を含め、校内外への各種研修に積極的に参加する。</p>	<p>校内外の研修に、6回以上参加した教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>100% <b>A</b> 【R6.8 A 100%】</p>	<p>今年度は、県教育委員会主催の校外研修に多くの教員が主体的に参加し、加えて教科や職務等に関する研修にも意欲的に参加した。多様な生徒が通う本校では、支援を要する生徒に対応する資質も求められることから、発達障がいや生徒理解を深める研修を定期的に設け、外部機関からの助言をいただくなど教職員の資質向上に努めた。今後もたゆまぬ努力を重ねて授業力と資質の向上を図り、自己研鑽に努める。</p>
	<p>③ 生徒が1人1台端末を使うような授業を日常的に実施し、生徒が端末活用する授業を行うことで、生徒が意欲的に授業に参加するよう授業改善に努める。</p>	<p>生徒が1人1台端末を授業で使うことで、意欲的に授業に参加していると思う生徒の割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>86% <b>B</b> 【R6.8 C 72%】</p>	<p>個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、1人1台端末の活用による「学び直し」や日常の授業内での考えの共有、振り返りに加え、共同編集やチャット機能を用いたやりとりなども試みている。結果、1人1台端末を使う場面が増え、「意欲的に授業に参加している」と感じる生徒が増えたものとする。今後も生徒の学習意欲を更に高められるような活用方法工夫に努める。</p>
<p>学校評議員・学校関係者評価委員の評価</p>		<p>授業内容について理解が難しい生徒や端末が苦手な生徒にはどう対応しているのか。</p>		
<p>学校評議員・学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>		<p>共同編集やチャット機能を活用し、他者の意見を知り共有することで理解を深め、生徒が自分の意見を出しやすいように学習方法を工夫している。端末の利用については、個別に支援しており、また、生徒同士でも教え合って学びを深めている。小中学校からのICTを駆使した学びが継続できるように努める。</p>		
<p>2 基本的な生活習慣を確立し規範意識を高めるとともに、道徳心や倫理観の向上を図る。</p>	<p>① いじめや非行、スマホ等を利用した不適切な行為を未然に防止するために、各種講習会・講演会を実施する。</p>	<p>いじめや不適切行為に関する訴え・相談件数が A 0件である。 B 1件である。 C 2件である。 D 3件以上である。</p>	<p>0件 <b>A</b> 【R6.7 A 0件】</p>	<p>年間4回行ったアンケート調査では、いじめの認知件数が0件であった。日々の教員全体による生徒観察や、生徒への声掛けを意識的に行ったことが成果として出ている。各種講習会などを通して身近に潜む危険を自分事として捉えられるよう今後も継続して指導を行う。教員間で情報を共有し、生徒がいつでもSOSを出せる環境づくりに努める。</p>
	<p>② 生活指導をとおして、挨拶や言葉遣いをはじめとして、適切な態度が取れるように、情操教育を充実する。</p>	<p>校則や社会のルール、TPOを意識して生活していると思う生徒の割合が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。</p>	<p>89% <b>B</b> 【R6.7 B 87%】</p>	<p>数値としては意識を持つ生徒割合は高いが、卒業後の社会生活を見据え、言葉遣いやマナーなど、一人ひとりが普段から意識して行動することが求められる。生徒が社会的ルールの必要性和自己責任について自分の問題としてとらえられるよう指導していくことが必要である。教職員全体で共通理解のもと個に応じた指導を行い、生徒の規範意識の向上に努める。</p>

		③ 保護者の協力を得ながら、健全な生活習慣を確立し、朝食摂取の習慣を身につけるとともに、食育や栄養指導を充実する。	朝食を毎日食べる生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	78% <b>C</b> 【R6.7 C 77%】	年間を通じて朝食を毎日食べる生徒の割合は7割強で変化が無かった。石川県（80.4%（令和2年度））の調査結果と比べると、本校は石川県の値よりやや低い傾向がみられ、朝食の大切さを訴え続けることは大切であると思うが、朝食に関する行動変容はどうしても家庭の協力が必要であり、色々な事情を抱えた生徒も在籍していることから、次年度からは取組目標の変更を考えたい。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		ネット等の利用について、詐欺やオンラインカジノなどの犯罪に巻き込まれたなどの事案はないか。そうならないように抑止してほしい。			
学校評議員・学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		警察や関係機関によるトラブル防止教室などを実施している。現在ネットトラブル等の事案はないが、今後も生徒の動向を注視する。			
3	学校行事等に積極的に参加することを通して自己肯定感や協調性、コミュニケーション力を高め、社会人として必要な素養を身につけさせる。	① 授業に協働学習やグループ活動等を積極的に取り入れ、「通級」による有効な指導法等も活かしながら、生徒が自分の考えを伝えられるように工夫する。	授業中に、自分の考えや意見を述べるができると思う生徒の割合が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	83% <b>B</b> 【R6.7 C 74%】	ロイロノートの共有ノートや共同編集機能を用いて、意見を出し合いスライドにまとめていく活動を取り入れる機会が増えた。試行錯誤しながら新たな取組も行った結果、それらの取組が「自分の考えや意見を述べるができる」と考える生徒の増加につながったと考える。
		② 校内外の各種行事の内容や生徒に対する働きかけを工夫し、積極的に参加させることを通して、自己肯定感や協調性を高めることに繋げる。	校内外の各種行事に、積極的に取り組んだと思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	85% <b>B</b> 【R6.7 B 80%】	千里浜清掃ボランティア活動も3年目となり、生徒の自主的な活動場面が増えた。また、体育祭や文化祭においても生徒会執行部だけでなく他の生徒も協力的に参加し、より活動を豊かにしようとしている。人前で活動を行うことに抵抗がある生徒もいるが、少しずつ主体性を引き出すような工夫に努め、計画から運営まで自己肯定感を高められるよう取り組む。
		③ 安全で安心な学校づくりに欠かせない避難訓練等において、生徒が的確な判断の下、防災意識を高め、身を守るために必要な行動を取れるように指導する。	緊急避難時に守るべき事項と、自分が取るべき行動について、理解していると思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	92% <b>A</b> 【R6.7 B 87%】	前期は、火災時の避難訓練と消火体験を実施した。様々な自然災害を想定し、後期は、洪水時の避難訓練を初めて実施し、避難経路と避難場所の確認を行った。さらに「洪水時にとるべき行動」についてクイズ形式で周知したことにより、生徒の防災意識の高まりが見られ、生徒のアンケート結果においても、災害時の避難行動において自分のとるべき行動について具体的に記す生徒が多く見られた。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		洪水時の避難訓練とはどういうものか。避難後の備蓄品も用意しておく必要がある。			
学校評議員・学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		3階以上に避難することの必要性を説明し、避難経路や避難場所の確認をした。また、洪水災害時にとるべき行動や安全な避難の方法についてクイズ形式で理解を深めた。学校経営計画にも防災教育を位置づけ、災害に対する意識の向上を図る。			
4	地域や外部機関（スクール・キャリア・アドバイザー等）と連携を深めながら進路指導を実施し、キャリア教育の充実に努める。	① 各学年にキャリア教育と進路指導を自分事として捉えられるように実施し、生徒が自ら進路目標を決定できるように支援を行う。	具体的な進路目標を持ち、進路実現のために努力すべきだと考えている生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	81% <b>B</b> 【R6.7 B 80%】	年2回の進路ガイダンスでは、以前は「進学」希望者対象の講座ばかりであったが、今年度は2回とも「就職」希望者対象の講座を設定した。12月は「内定者セミナー」も設定し、個別最適性を高めたガイダンスを実施でき、生徒の出席率も前年度より高くなった。今後も、生徒が企業見学や上級学校見学などを体験し、自分の進路実現に向けて具体的に考える機会となるよう取り組む。

	② 生徒の進路志望を実現するため、関係諸機関や地元企業との連携を深め、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。	卒業生の進路実現の割合が A 100%である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	90% <b>B</b> 【R6.2 D75%】	卒業予定者10名のうち具体的な行先が決定しているのは、就職4名進学5名である。残り1名は、関係諸機関や外部相談支援専門員（SCA）と連携し、保護者の意向も十分に沿って、生徒本人の希望・適性・能力に合致した指導を積み重ねている。	
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		1年次生から進路を考える機会を多く与えていただいて有難い。卒業生で進路未決定者のその後の進路状況について学校は把握しているか。			
学校評議員・学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		卒業後の進路については把握している。進路について具体的に考える機会を多く設定し、毎回同じような企画にならないように工夫しているが、進路ガイダンス等の行事のみに頼るのではなく、進路実現を見据えたキャリア教育の充実に努める。			
5	教職員のウェルビーイングに繋がる働き方改革を推進し、教育の質の向上とワークライフバランスを図る。	① 教職員の多忙化改善に向けて、適切な校務分担と、効率的な業務の遂行に務める。	職場の多忙化改善に取り組んだ、と答えた教職員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	100% <b>A</b> 【R6.8 A100%】	年間を通して、職場全体で多忙化改善に取り組み、業務の効率化を図ることができた。教員間での連絡や研修報告をデジタル化し共有することで時間短縮と作業軽減を図ったり、ICT支援員などの協力を得て行事運営をスムーズにしたりと、新しい取り組みを取り入れたことも教職員の意識改革に繋がったと考えられる。今後も、教職員の心身の健康を守り、環境を整えながら職場全体で多忙化改善に努める。
学校評議員・学校関係者評価委員の評価		業務や授業で端末を活用しデジタル化していくことで、生徒と教員の会話が減っていないのか。			
学校評議員・学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		生徒から様々な意見を引き出すことができ、会話は増えていると感じる。教員は、健康に留意しながら引き続き効率的な業務の遂行に努める。			